

母子の絆

カネミ油症の真実

カネミ油症被害者を見捨てた国、その罪を問う

1968年（昭和43年）、西日本一帯で食中毒事件「カネミ油症事件」が発生。ダイオキシン類「PCDF」（ポリ塩化ジベンゾフラン）という猛毒物質が、カネミライスオイル（米ぬか油）に混入したことにより、数万人の被害者を生み出すことになった。

国（厚生省・当時）が初期対応を誤り、事件から56年経過した今も、解決しないままだ。カネミ油を口にした本人だけでなく、子や孫の世代まで被害が広がっている。すべてのカネミ油症被害者の救済のために、今なにができるだろうか。



映画の 内容

長年カネミ油症の被害を抱え、悩み、苦しんでこられたカネミ油症被害者の方々の証言、母体から胎盤を通して胎児にダイオキシン類の猛毒物質が移行したと話す研究者と医師たち。語りは松崎謙二、円地晶子、菅原あき。監督は「二重被爆～語り部・山口彊の遺言」「奇跡の子どもたち」「憲法を武器として」「日高線と生きる」を手掛けてきた稲塚秀孝の第13作目、渾身の作品です。

監督・プロデュース 稲塚秀孝

製作：タキオンジャパン ©TAKIONJAPAN 2024